

福庭自治公民館建設推進委員 各位
土井 博文 様 (15 班)
梅田 茂信 様 (副館長・会計担当)
徳丸 宏則 様 (市・建設部長)
井手添 誠 様 (建築設計事務所社長)
野田 克也 様 (同社 常務)

2021 年 8 月 23 日
福庭自治公民館
館長 土井 承夫

新公民館に供する主な備品の確認と第 11 回建設推進委員会開催の件

毎々お世話になり有難うございます。ご承知の通り新公民館の建設は管理・監督者の井手添建築設計事務所様と施工者の馬野建設株式会社様のご尽力により、所定の工程表通り作業が進んでおります。関係者の皆様に対し厚く御礼申し上げます。

さて、先週末（8 月 21 日）時点でほぼ基礎工事が完了し 9 月の頭からいよいよ「建て方」・「上棟」の作業に入ります。完成が 11 月末ですので 9 月の初旬に題記の建設推進委員会を開催し主な備品や自主的な寄附の番付である「寄附者銘板」と玄関に掲げる「表札」制作の手順を確認をしたいと存じます。

不遜ながら皆様に申し上げます。本プロジェクトは単に福庭の住民だけの案件ではありません。総予算の約 4600 万円の内、倉吉市を窓口とする公的な助成金が 1590 万円と全体の約 35%を占め、更に低利貸し付け融資金 2000 万円が加わります。15 年間という長期にわたって公民館の現状の会計から支払っていくのですが、この制度も倉吉市が行っているものでありこれを加えると合計 3590 万円が公的制度と繋がっております。これは全体の何と 78%となります。この事案はもはや福庭だけのものではなく倉吉版「官民合同プロジェクト」と呼んでも過言ではないと思います。今でも奇異に思われているかも知れませんが、私が発行している毎月の「館長報告」はメールで倉吉市長様、湯梨浜町長様、石破 茂代議士様や大学の教授、地域の各団体の幹部や国内外で活躍している私の知人等に同時配信されています。その数は合計約 60 名の方々です。

3 年前の福庭の総会で住民から強制的に 1 円も頂けないと知った時から私はそれに代わる方策は人脈すなわち「組織における”人”」に頼るしかないと決意しました。そのやり方の一つがこれらの方々々に逐次進捗状況を知って頂くという事でした。一種の売名行為の様にやたらめったら上の人へメールして

いるわけではありません。そんな事をすれば直ぐに秘書の方から「止めて下さい」と連絡が来るはずです。あくまでも礼儀を尽くしてお会いさせて頂き私の文章を読んで頂けると確信させて頂いた方のみにお送りしております。毎月お送りしてもう4年目に入っていますが、まだどなたからも「もう送らないでくれ」とは言われておりません。このメールのやり方は私が長い国内外での会社勤務のなかで「最後は人しかいない」と痛感した事から始まっています。そのお話は別の機会に致します。4月の初めに助成金1590万円の支給が決まり続けて山陰合同銀行倉吉支店に2000万円の低利融資の手続き行った時に皆様にもお知らせした事件が起きました。支店長には愚弄され担当者からは与信のための私の個人資産の調査まで言及されました。ここでこのプロジェクトも終わりかと思われた向きもありました。そこを救って頂いたのは倉吉市長の石田耕太郎様でした。

市長付秘書様にいち早く関係先に対して動いて頂き、前述の倉吉支店長が実働2日間で2000万円融資の承諾書を市長あて提出した事で本件は落着となりました。結果として、15年間2000万円を借りて金利がたったの15万円、率にして0.1%の、本音はやりたくない商売に支店長を同意させたわけです。ここで間違ったくなくないのは、こういう効果を期待して普段から市長様にメールをお送りしていたわけでは決してありません。あくまでも謙虚に状況を知っておいて頂きたい、「それが私共の励みになります」という思いからです。見返りを期待してお客様に近づくような卑近なやり方では信頼関係は構築できません。まず「お客様を好きになる事、もし嫌ったらお客様はその3倍君の事を嫌っていると思え」とは、来年4月に資本と社名が変わる日立金属(株)で繰り返し教えられて来た営業の鉄則でした。そして、「管理職になって偉くなればなるほど実る稲穂の様に頭(こうべ)を垂れて謙虚にお客様に接する事」とも教育されました。前述の60名の方々にはその様にさせて頂いている積もりです。

今回打ち合わせさせて頂く備品の中にはこれら60名の方々や福庭住民1000名の皆様と約束している「中古ピアノの大会議室設置(土井が調律と運送費を負担する条件で無償提供するもの)」「全部屋エアコンの設置」等が含まれています。特にピアノは音楽教師であった私の父、土井政雄が今から34年前の昭和62年に私と同じ62歳で館長を拝命し任期の4年間を務めさせて頂きましたが、当時は考え方が古く、福庭の複数の方々から「そんなピアノとか西洋のオモチャを買ってなんすっだいや」と陰口を叩かれ悩んだそうです。本人にとってみれば仕事の重要な道具でありトミヤ楽器で月賦をしてまで買わなければならなかったものです。

ですから、ピアノの中でも一番小さいものしか当時の給料では買えませんでした。今回はそれが幸いして普通のピアノよりは場所をとりません。福庭の女性で当時我が家にコーラスの練習に来ていた6班の伊藤末子さんや12班の佐藤艶子さん等からは、「この中古ピアノが新しい公民館に入ったらどんなにかお父さんは喜ばれると思うよ」と言って下さいます。この色々な思いが詰まった添付写真のブラウン色の小型中古ピアノ（YAMAHA製）を是非新公民館2階のフローリング大会議室に入れさせていただきます。伏してお願い致します。（このピアノに纏わる話は、令和元年（2019年）5月の館長報告（添付）の2,3ページに掲載しています）

また、このピアノ導入の話は昨年2月に倉吉福祉センターで本件プロジェクトを私がプレゼンした時に広く内外に表明しておりそのパワポ資料は全戸回覧済です。これは翌日の日本海新聞でも取り上げられており、県、市、上井地区、福庭の皆様との私の「マニフェスト（公約）」でもあります。予算の許す限り何としてでも実行させて頂きたいと願っております。そのピアノの写真、寸法、2階会議室（フローリング15帖の部屋）の最終図面（S:=1：100）にピアノの占める部分を記載しております。また、エアコン4台は昔から個人的に取引がある「百万ボルト」の河本裕也チーフリーダーにお願いして日立の「白くまくん」をリーズナブルな価格で4台提供して頂きます。詳細は建設委員会でお話します。ではその建設推進委員会の日程と打ち合わせ事項について下記致します。

<第11回 建設推進委員会>

(1) 日程：2021年9月3日（金）18時30分より

会場：ボンシヤンス食堂

(2) 打ち合わせ内容

- (a) 備品について・・・ピアノ、エアコン、テレビ、DVDプレーヤーカラオケ機、プレゼンテーション用プロジェクターとスクリーン（この2つは前述の福祉センター発表会で入選して得た賞金5万円を主な財源として購入済）

<備考>SHARPの亀山モデル薄型テレビ34インチとSONYのDVDプレーヤを中古品ですが無償で提供させていただきます。1階の8帖の部屋に置かれてはどうでしょうか？寸法の入った写真を添付します。

- (b) 寄付者銘板と玄関の表札について・・・当日までに寄付者の氏名・金額の明細をまとめて皆さんに報告します。それに基づき打ち合わせ致しましょう。表札については皆さんの情報提供をお願い致します。

また、上記全ての設置可能時期についても確認させていただきます。井手添様、野田様あらかじめ大体の時期をご確認の上ご出席ください。

(3) 公民館の道側にある古いフェンスの取り換え工事について・・・

徳丸建設部長殿の方で現場を確認頂き同フェンスの代替工事費用が倉吉市の負担ではない事を確認頂いた。そこで徳丸様の方で見積もり業者を選定し価格を把握したうえでご自分で個人的に負担させて頂くという申し出がありました。これに対して私も半分手伝うという話をしました。然しこれは本来、公民館の会計から出すべきものであります。会計殿より 18 班のゴミステーション移設に 80 万円のコストがかかり伊藤工務に発注したいとの申し出がありました。私はこれを認可致しましたが、未だその詳細についての報告を受けておりません（発注書と請け書、さらに納期・工程の詳細等）また伊藤総務部長からも何のお礼も言葉もありません。梅田副館長様、この 80 万円のコストの原価明細（材料費、人件費、光熱費、外注費、工賃、運搬費、管理費等）を調べて原価低減してみてください。お願い致します。また、現状 200 万円の公民館建設に使える予備費があるとお聞きしました。前述のエアコン等の支払いの後、このお金の中からフェンス工事費用を捻出して頂けないでしょうか？ご検討ください。当日の会議でご説明方お願い致します。

最後に、私は館長に就任した平成 30 年（2018 年）の第 4 回（4 月）館長報告で新公民館建設を福庭の皆さんと前述の 60 名の方々に初めて提案致しました。そしてその報告書の最終ページに「館長の考え方」として「儉約の精神」で有名な江戸中期の山形・米沢藩主「上杉鷹山（うえずぎようざん）」のお話をしました。鷹山が財政破綻していた米沢藩を立て直せたのは「儉約の精神」で貯蓄だけに注力したのではなく「うまくお金を使った」からです。それを一般の民間会社では「費用対効果」いいます。英語では ROI(Return on Investment)といえます。つまり、最大の効果が出るように適材適所に適額を支出する事が「儉約の意義」を発揮させる前提なのです。鷹山の、名言「成せばなる、成さねばならぬ何事も 成さぬは人の、なさぬなりけり」～いまこそ 10 年、20 年先に禍根を残さぬよう 220 ある市内の自治公民館で一番立派な公民館を完成させましょう。必要ならばその効果を見据えてお金を適額使いましょう。これが 4 年間私が言い続けてきたポリシーであります。今まで皆様には大変お世話になりました。そして直近の 2 年間は特に梅田茂信副館長兼会計担当様から多大なるサポート頂いております。梅田さんがいなかったらここまで来れませんでした。心から感謝申し上げます。今回も長文を読んで頂きありがとうございます。以上